

心をつなぐ あいさつの力

副校長 稲葉 義愛

新年度が始まり約一か月、子どもたちも学校生活に慣れ、各教室や校庭に元気な声が響いています。「成長しよう」という子どもたちの並々ならぬ気合を感じ、私たち教職員も気合が入っています。

さて、本校の一年間を通しての生活目標は「自分からすすんであいさつをしよう」です。挨拶は、たったひと言で相手との距離をぐっと縮めることができる、まさに「心をつなぐ」言葉です。毎朝、昇降口で子どもたち同士、子供と教員が交わしている「おはようございます」という挨拶が職員室まで聞こえてきます。その声を聴きながら「今日も気持ちよく1日を始められるな」とうれしくなります。

先日、1年生の下校に付き添って歩いていたときのことです。一緒に歩いていた1年生がすれ違った地域の方に「こんにちは！」と挨拶をしました。その方はにっこり微笑んで「こんにちは、お帰りなさい。」と返してくださいました。ほんの数秒の出来事でしたが、そこには相手を思いやる気持ちと心をつなぐ交流がありました。挨拶一つで、とても温かい空気が生まれました。

ところで、皆さんは世界にどれくらいの言語があるかご存じでしょうか。現在、世界にはおよそ7,000もの言語が存在すると言われています。それぞれの言語には独自の文化や表現があり、言葉の響きも使い方もさまざまです。しかし、驚くべきことにそのどれ一つとして「挨拶のない言語」は存在しないそうです。言い方や挨拶をするタイミングは違っても、世界中のすべての言語に「こんにちは」や「さようなら」、あるいは「ありがとう」といった人と人との心をつなぐ言葉があるのです。

これは、人間がどの国・どの時代においても、人とのつながりや思いやりを大切にしてきた証だと思えます。もちろん、挨拶は習慣になるまでなかなか口に出せないこともあります。恥ずかしかったり、きっかけをつかみにくかったりすることもあります。でも、「おはよう」「ありがとう」のたった一言が、相手の心を温め、自分の心も整えてくれる。そんな力があることを、子どもたちにはぜひ感じてほしいと思います。

教育関係者の間で有名な哲学者の森信三さんは、多くの著作の中で「人間は、挨拶と返事と後始末ができれば、それで一生困らない」と書き記しています。この言葉には挨拶は人間関係の基本であり、社会で信頼される第一歩であるという意味が込められています。また、世界で活躍した野球選手、イチローさんも、子供の頃からお父さんに「挨拶だけは誰にも負けるな」と言われて育ったそうです。プロになった後も、球場の清掃員や裏方のスタッフにまで、丁寧に挨拶をしていたというエピソードがあります。イチロー選手の成功の陰には、技術だけでなく、人とのつながりを大切にする心があったのです。

学校では年間を通して挨拶について指導していきますが、御家庭や地域でもぜひ「挨拶のある暮らし」を心がけていただければと思います。朝の始まりに「おはよう」、帰ってきたときに「ただいま」と「おかえり」、食事の前に「いただきます」、何かあるたびに「ありがとう」。この小さな言葉の積み重ね、習慣化が子どもたちの心を豊かに育てていきます。

今年度も学校中で挨拶が飛び交い、子どもたちが挨拶を通じて人とのつながりを大切にできる、そんな温かい学校づくりを保護者・地域の皆様とともに進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

